

碁盤と碁石

長房囲碁同好会 池口隆久

乙媛旅館の主で、趣味で碁会所を開いていた鹿島さんから、榧の碁盤を買った。話によると、鹿島さんは榧の木を買い求め、(4~5年間自然乾燥させておいたか、それは知らない)、碁盤をいくつか作らせたらしい。碁会所に碁盤がいくつか並んでいた。私は1ヶ月分の給料をはたいて榧の碁盤を譲ってもらった。鹿島さんに教わった通り、椿油を少し染み込ませた布きれで乾拭きは怠らなかった。兄の友人で大横町の大野たんす店に頼んで、銅版のカバーを造ってもらった。

平成16年6月に、さる旅行社のツアーに参加した。台風が予想されたが、旅行社は実施するという。やむなく出掛けたが、実は台風の真っ直中に飛び込んだようなものだった。那智の滝は全く見えず、空から風呂桶をひっくり返したような雨が落ちてきていた。バスを降りて、熊野那智大社まで朱印を求めて行くのが、大ごとだった。結局神社へ参拝に出掛けたのは私1人。バスから降りるのをためらう人が多かったくらいだから。那智大社から戻る途中、参道の沿いの店に並んでいた碁石(本那智黒36号)が気に入り、それを買い求めてきた。



同じ旅行社のツアーで中国に行ったとき、万里の長城付近の店先で見た「メノウの碁石」がどうしても欲しくて、好奇心に駆られてやはり買ってしまった。那智黒・日向蛤のとは違って、指になじみにくい、宝石で遊んでいるつもりで盤上に並べて

いる。碁石の表面に微妙な模様が浮かび上がっており、なかなか味があるらしい。

(2021年11月)